

厚生労働省

医療用医薬品の安定確保策に関する関係者会議

ワーキンググループ

医薬品の流通可視化の 現状と可能性

2023年9月7日

エンサイス株式会社

木村 仁

FOR THE NEXT GENERATION. FOR THE PATIENTS.

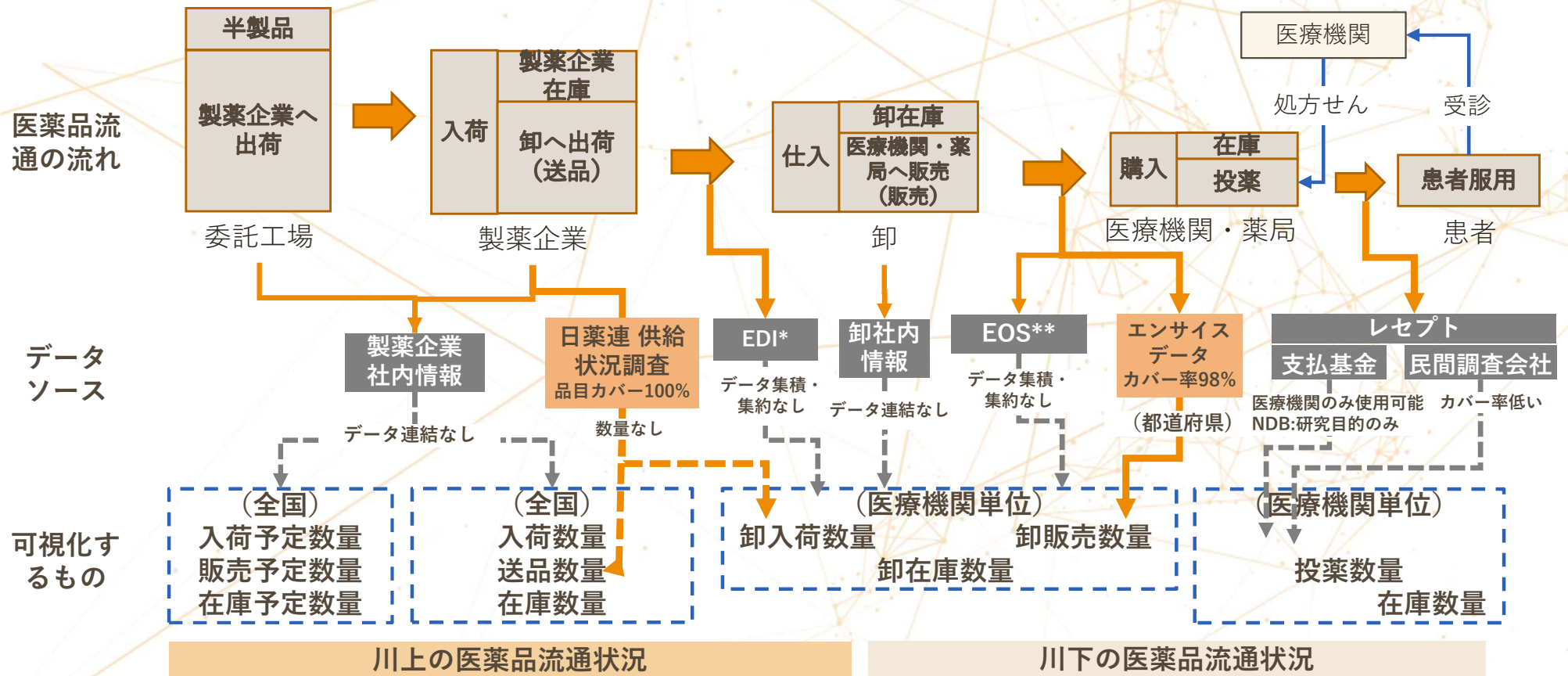
可視化に向けたポイント

1. サプライチェーン：製薬企業(含委託工場) → 医薬品卸 → 医療機関(含保険薬局)
2. 可視化の時点：入荷/購入・販売/送品・在庫
3. 可視化の実現性：
 - ①今できること(短期対策)
 - ②今あるものを改修・接続してできること(中・長期対策)
 - ③システム構築(中・長期対策)

医薬品流通の可視化の実現性：今出来ること

- 可視化には流通の各段階のタイムリー且つ高カバー率・高精度のデータ集約とその連結が必要だが現時点では出来ていない

➡ 医薬品の流れ
➡ 情報の流れ



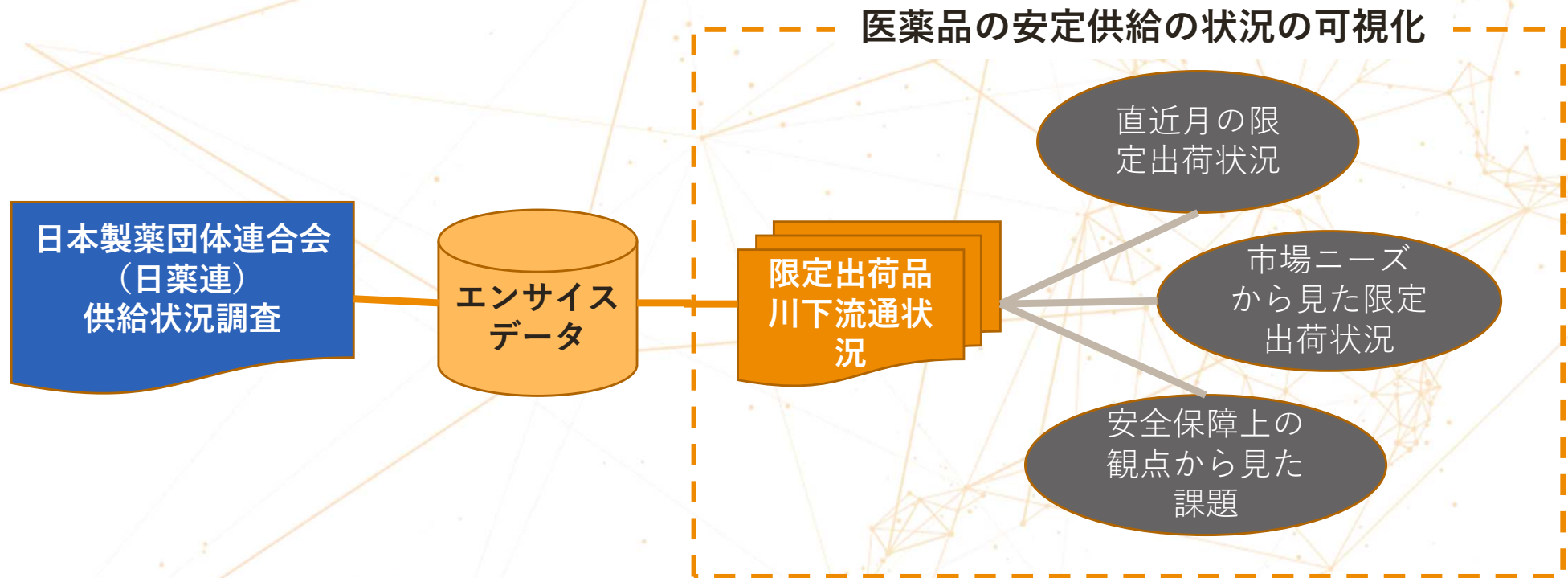
* Electric Data Interchange
** Electric Ordering System

可視化に向けたポイント

1. サプライチェーン：製薬企業(含委託工場) → 医薬品卸 → 医療機関(含保険薬局)
2. 可視化の時点：入荷/購入・販売/送品・在庫
3. 可視化の実現：
 - ① 今できること(短期対策)
 - ② 今あるものを改修・接続してできること(中・長期対策)
 - ③ システム構築(中・長期対策)

医薬品の安定供給実態の成分・製品別推測モデル

- 医薬品の安定供給状況に関し、日薬連公開情報（供給状況調査）と医薬品売上データ（エンサイスデータ）を組み合わせ、**全国レベルで成分別・製品別の需給実態の推測**を常時行う



エンサイスについて

エンサイス株式会社は、医療・医薬品に関する共有すべき情報を集約し、効率的なシステムと高度なコンサルティングサービスを通じ、持続可能な医療社会の一翼を担うことを目的とし、医薬品卸企業19社(ホールディングスベース：現在は合併により18社)及びクレコンリサーチ&コンサルティングにより2012年に設立されました。

会社名

エンサイス株式会社 (Encise Inc.)

設立

2012年11月

所在地

東京都渋谷区渋谷一丁目2番5号 MFPR渋谷ビル

資本金

4億9,900万円 (19社による合併事業)

事業内容

- 1 医薬品に関連する情報の収集及び販売
- 2 システムの開発及び販売
- 3 その他医療関連サービス開発及び販売

役員

| | |
|---------|------------------------------|
| 代表取締役社長 | 木村仁 |
| 取締役副社長 | 岩瀬滋彦 |
| 取締役 | 土屋貴、滝沢伸之 |
| 社外取締役 | 荒川 隆治、有働敦、田中雅之、 村井泰介、木村文治 |
| 監査役 | 西谷剛史 |

日本製薬団体連合会の医薬品供給状況調査からの限定出荷の算出方法

- 日本製薬団体連合会の医薬品供給状況調査の品目毎の「出荷量の状況」と「製造販売業者の対応状況」から、下図の通り「通常出荷」、「限定出荷_（理由）」、「出荷停止予定」、「出荷停止」に分類
- 分類の「通常出荷」以外を「限定出荷」としてエンサイスデータに突合し限定出荷状況を算出

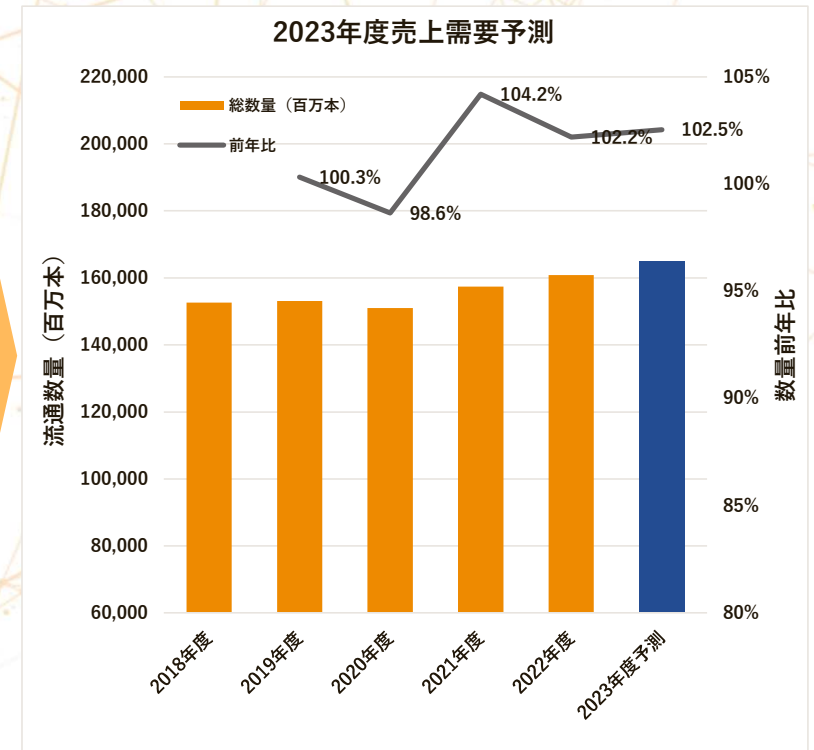
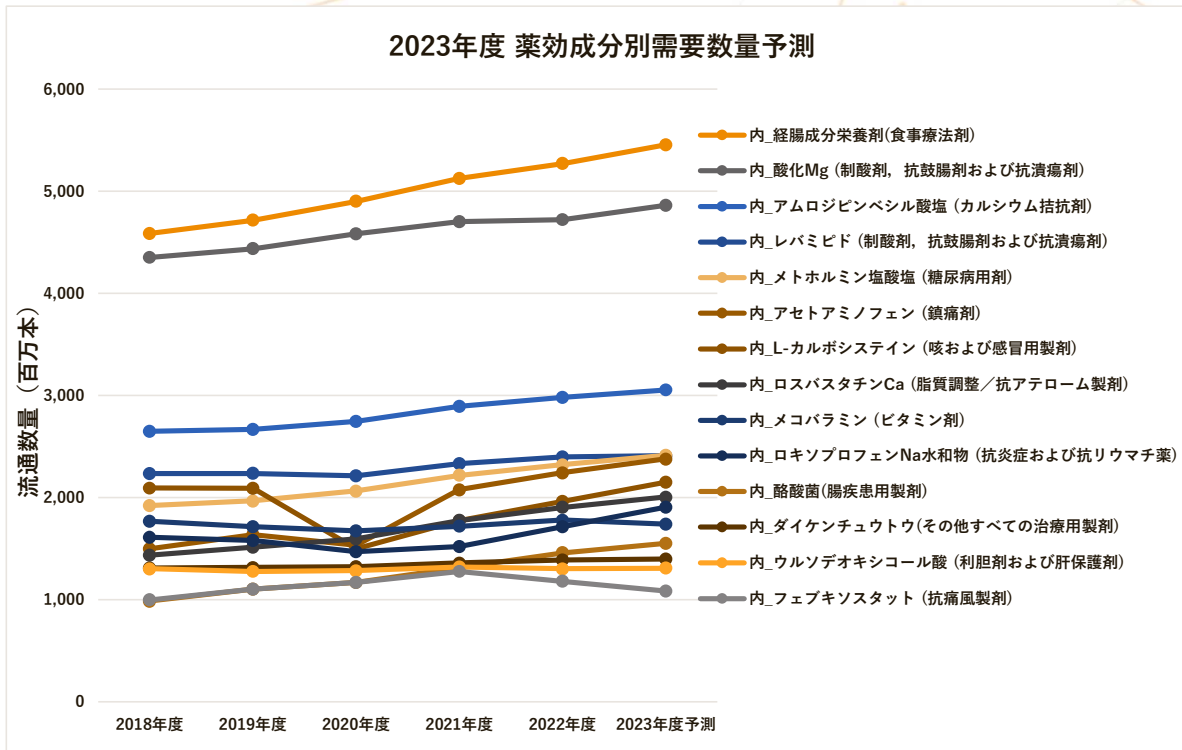
- 日本製薬団体連合会「日薬連2023年6月供給状況調査結果」
 - 調査期間：2023年6月28日～7月7日/18日
 - 対象：2023年6月時点で薬価収載されている全ての医薬品

| 項目 | 出荷量の状況 | | | | | |
|------------------------------|--------------------|----------------|--------------|---------------|---------|-----------------|
| | A. 出荷量 通常 | Aプラス、 出荷量増加 | B. 出荷量 減少 | C. 出荷停止 | D. 販売中止 | 記載なし |
| ①通常出荷 | 通常出荷（13,330品目） | | | 出荷停止予定(219品目) | | 通常出荷 |
| ②限定出荷（自社の事情） | 限定出荷_自社事情（732品目） | | | | | |
| 製造販売業者の対応状況 ③限定出荷（他社品の影響） | 限定出荷_他社影響（1,559品目） | | | | | |
| ④限定出荷（その他） | 限定出荷_その他（171品目） | | | | | |
| ⑤供給停止 | 出荷停止（1476品目） | | | | | |
| 記載なし | 通常出荷 | | | 出荷停止予定 | | 備考確認 (956品目) |

出典：日本製薬団体連合会「医薬品供給状況にかかる調査（2023年6月）」

医療用医薬品の成分需要数量予測モデル(例)：2023年度予測

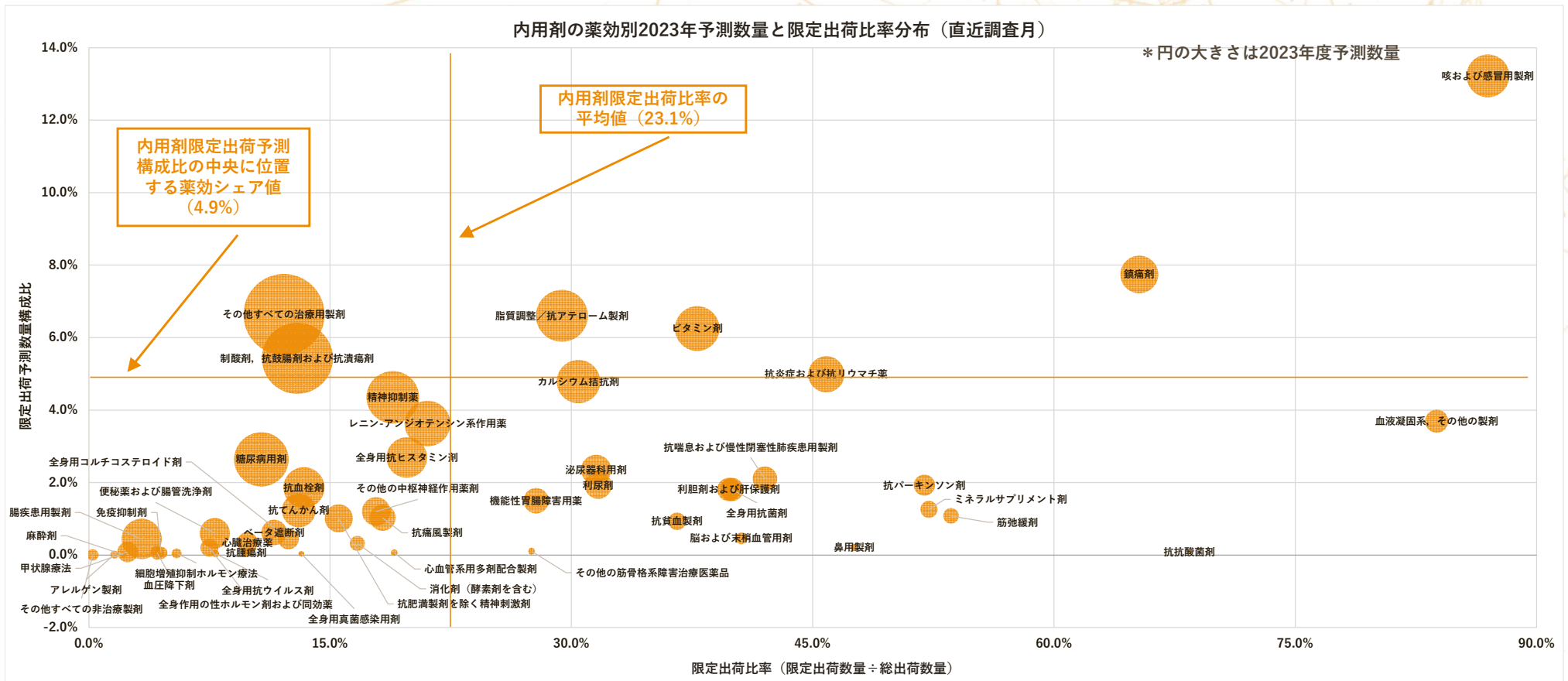
- 剤形・成分別の過去5年間（2018～2022年度）の数量の回帰直線から2023年度の数量需要を予測
 - ・ 但し、予測数量が2022年度の伸び率と10pt以上差がある場合、2021～2022年度数量の回帰直線予測に修正
- 2023年度の需要予測数量は全体で2022年より2.5%増加



出典：エンサイスデータ

モニタリングパネル(例)： 内用薬・薬効別2023年度予測需要数量と限定出荷状況(6月時点予測)

- 2023年度予測数量から限定出荷数量の予測と現状の限定出荷比率を分布化（円の大きさは2023年度予測数量）
- 限定出荷の数量と比率がともに高いゾーンは咳・感冒用薬、鎮痛剤、抗炎症・リウマチ剤、ビタミン剤、脂質調整/高アテローム製剤、カルシウム拮抗剤

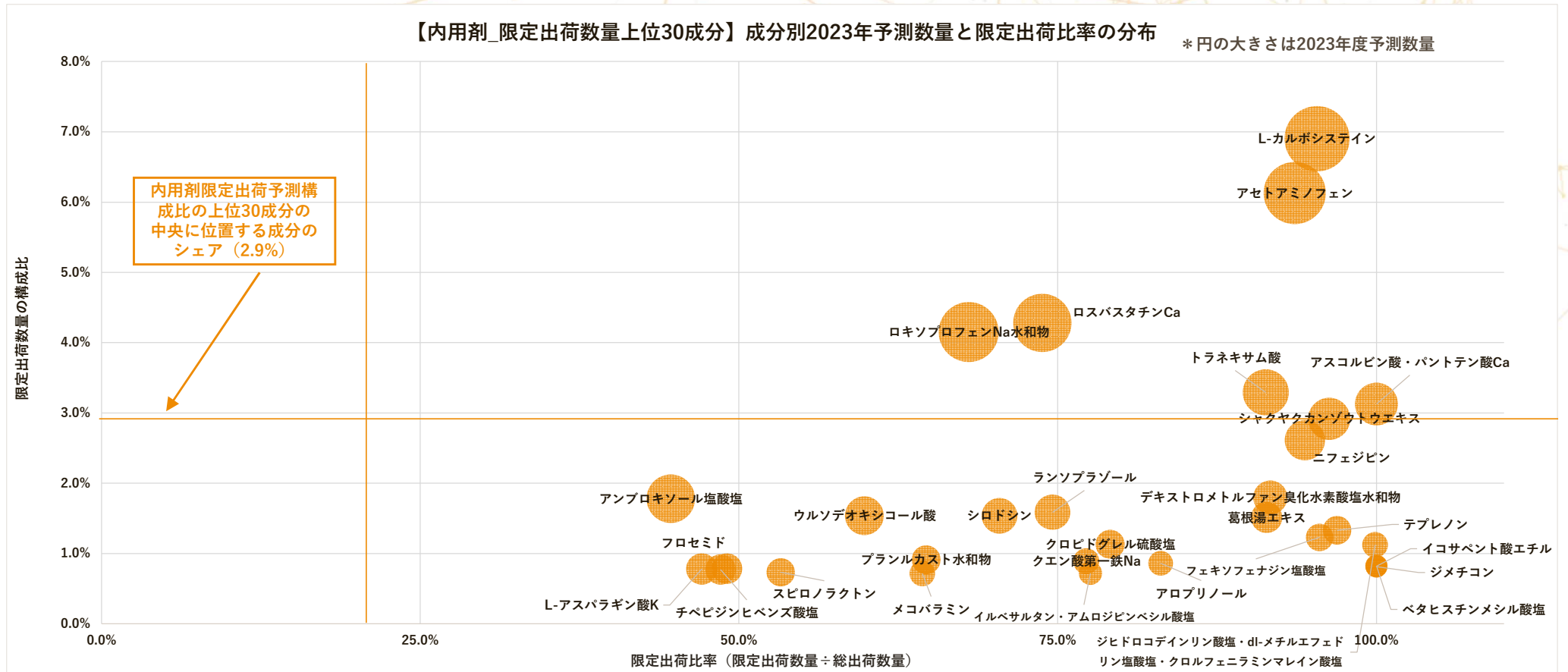


出典：日本製薬団体連合会「医薬品供給状況にかかる調査」リスト、エンサイスデータ

モニタリングパネル(例)：

内用薬・限定出荷数量上位30成分 2023年度予測需要数量と限定出荷状況(6月時点予測)

- 成分別ではアセトアミノフェン、ロキソプロフェン、L-カルボシステイン、ロスバスタチン、トラネキサム酸、アスコルビン酸パントテン酸Ca、シャクヤクカンゾウトウエキスが限定出荷の数量・比率ともに高いゾーン



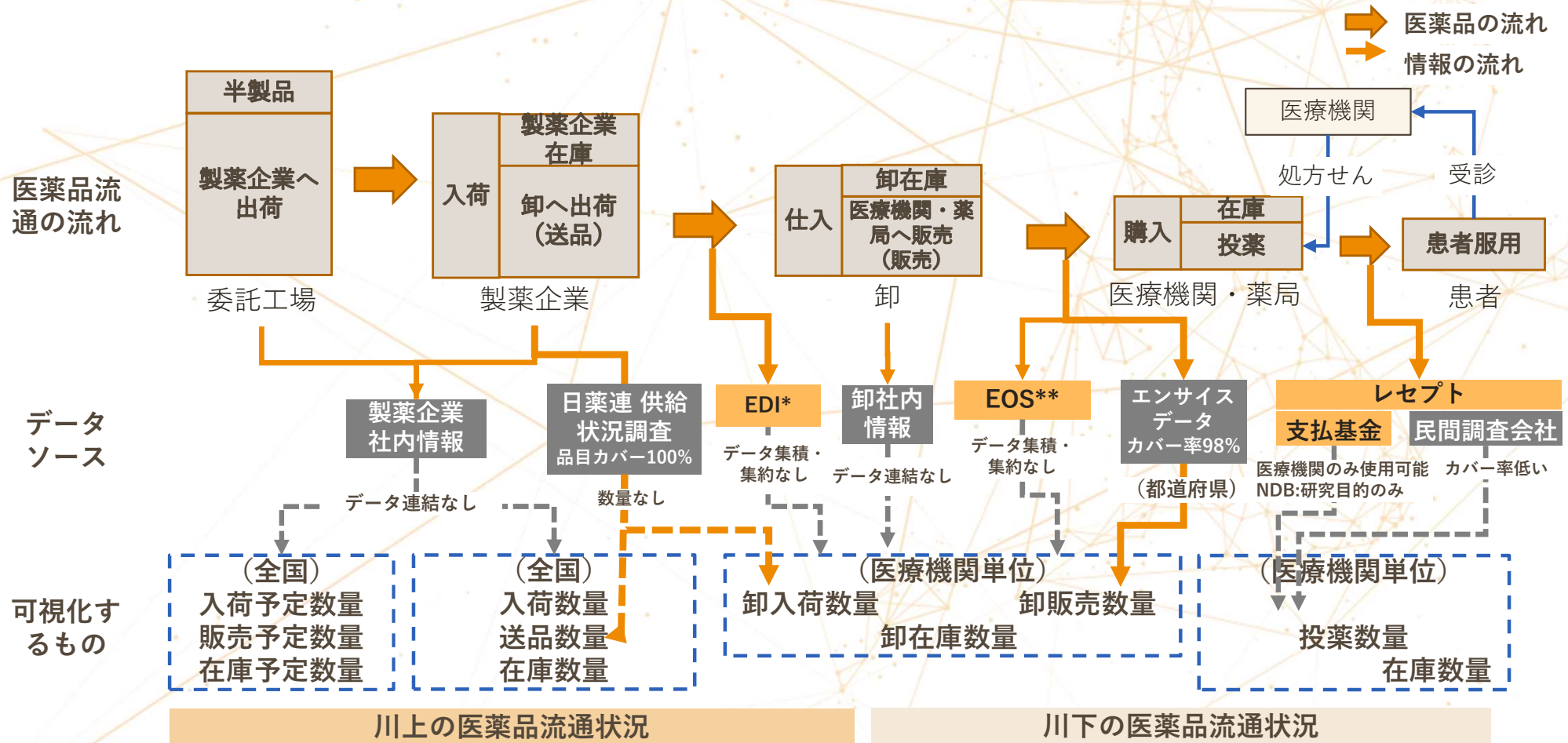
出典：日本製薬団体連合会「医薬品供給状況にかかる調査」リスト、エンサイスデータ

可視化に向けたポイント

1. サプライチェーン：製薬企業(含委託工場) → 医薬品卸 → 医療機関(含保険薬局)
2. 可視化の時点：入荷/購入・販売/送品・在庫
3. 可視化の実現：
 - ①今できること(短期対策)
 - ②今あるものを改修・接続してできること(中・長期対策)
 - ③システム構築(中・長期対策)

医薬品流通の可視化の実現性： 今あるものを改修・接続してできること

- もしEDIやEOSを全国標準化・システム改修し、支払基金のレセプトシステムと接続出来れば、市中在庫まで把握できる可能性がある（政府による意思決定・予算確保、全ての関係者の協力が必要）



* Electric Data Interchange
** Electric Ordering System

可視化に向けたポイント

1. サプライチェーン：製薬企業(含委託工場) → 医薬品卸 → 医療機関(含保険薬局)
2. 可視化の時点：入荷/購入・販売/送品・在庫
3. 可視化の実現：
 - ①今できること (短期対策)
 - ②今あるものを改修・接続してできること (中・長期対策)
 - ③システム構築 (中・長期対策)
 - ・ 本日の厚生労働省からご紹介された民間企業の取り組み事例

ご清聴いただきありがとうございました

Thank you for listening

